

「平成 28 年度 第 1 回高知県社会貢献活動支援推進会議」

開催日時：平成 28 年 8 月 31 日（水）13：30～15：00

議題

- (1) 第 3 次社会貢献活動支援推進計画に基づく支援策について
 - ・平成 27 年度の実績及び今後の取組
- (2) 高知県の社会貢献活動支援に係る事業概要
 - ・平成 27 年度実績及び平成 28 年度予算
- (3) 2 年間の取組結果について

(事務局)

- ・委員紹介
- ・挨拶
- ・資料 1 及び資料 2 について説明

(会長)

質問等につきましては、全て報告の後に一括して質疑応答の時間を設けたいと思います。

続きまして、高知県ボランティア・NPOセンター、説明をお願いします。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

資料 2 について説明

(会長)

はい、ありがとうございました。

続いて、NPO高知市民会議の取組について、ご説明をお願いします。

(NPO高知市民会議)

はい。NPO高知市民会議は、先ほどボランティア・NPOセンター、それから高知県のほうから言っていていただいておりますので、特にはございません。

(会長)

はい、ありがとうございます。

続いて、高知県西部NPO支援ネットワークの取組について、お願いします。

(高知県西部NPO支援ネットワーク)

はい。今、県並びにセンター、市民会議がおっしゃった中身以外のもので一点だけあります。[資料2](#)4ページ、団体相互の交流連携のネットワークの下側になりますが、地域の交流学習会 in 三原村ということで、3月に開催しております。

これは三原のNPOと地域の農業を中心とした活性化を研究をしようということで、講師をお招きをして講演会を行いました。

(会長)

ありがとうございました。

それぞれの実施主体からご説明いただきましたが、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

お願いします。

《[資料2](#)に関する質疑応答・意見交換》

(委員)

センターに関わるものでいくつかあるんです。確認も含めてなんですけど、まず[資料2](#)3ページの真ん中の②NPO運営関係の各種講座の実施という中で、上のほうにアクション、改善っていうのがあるんですけど、ターゲットの明確化っていうふうに書かれてるんです。実行のところを見ると、参加者のニーズが多いかどうか、その比較がちょっと分からないんですけども。例えば、ターゲットを明らかにするためにアンケートでニーズをつかむとか、その辺りの活動はどうなってるのか確認です。

それから、続きまして[資料2](#)5ページ。これもちょっと確認ですけど、一番上の①の県民向けの効果的・戦略的な情報発信の中の実行、(D)のところの下から2行目のボランティアのキャンペーンというのは、具体的にどういうふうな活動をされているのかということと、私自身が今言ったようにどういう方法でされてるのかということとをちょっと教えていただきたいと思います。

それから、[資料2](#)6ページの真ん中に、①NPOによる寄附募集の取組の強化。ここでは寄附募集ガイドの作成ということで、実際1,000部印刷をされたと思うんですけど、実際これをされた後の効果、何か反響といいますか、その辺りはどういうふう把握されてるのか、以上3点です。

(会長)

はい、お願いします。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

はい。まず、1つ目。ターゲットの明確化のところですが、今年度、センターとしてその支援の強化を高めていこうということを考えておりまして、現在、アンケート調査を進めているところです。

2つ目の夏のボランティアキャンペーンです。各年度の初め頃に、ボランティア受入れについて、団体やグループ、NPO法人などに希望を募ります。そして、その団体のボランティアプログラムを冊子にまとめます。それが、夏のボランティアのガイドブックになります。県内の高等学校、生徒さんお一人お一人に行き渡るようにお配りし、また一般向けにも配布をさせていただき、期間としては7月中旬から8月末に、ボランティアキャンペーンを実施しております。

3つ目ですが、寄付募集ガイドにつきましては、今年度のファンドレイジングセミナー、9月に予定しています。寄付募集ガイド、ただ配るというよりは、ファンドレイジングという資金調達という意味ですけれども、そういう研修の場を設けます。そのときに寄付募集ガイドをお持ちしようと考えています。以上です。

(委員)

はい。ありがとうございます。

(会長)

分かりましたか。

ほかにございませんか。

(委員)

はい。

(会長)

はい、どうぞ。

(委員)

質問だけではなく、「あっ、頑張ったな」という、そういう意見でもいいんでしょうか。

(会長)

はい。

(委員)

はい。まずちょっと教えてほしいのは、**資料2** 2ページの認定NPO法人への移行促進で、認定NPO法人のメリットをアピールし、認定法人への移行を促進すると書いてますけど、メリットをアピールした対象はどこかなというところですね。それによって、意見が出てくるかなと思います。

それから、あとは「頑張ったな」っていうところは、この福祉教育ステップアップ事業で、南海中学校や潮江中学校、春野高等学校で継続して行ったっていうことですが、なかなか学校に回るのは大変だとは思いますが、中学・高校の人たちにこういうことを知ってもらおうというのはとても大切なことだと思うので、若い人たちへの取組もこれからも進めていってほしいなと思いました。

それから、ナツボラのキャンペーン、どこに何をしたのか質問が出てきましたけれども、このボランティアガイダンス、ナツボラの体験者が昨年度、この「昨年度」っていう書き方が分かりにくいと思うんですよね。今、28年度じゃないですか。ここに書かれてる今年度は一体いつなのか、昨年度はいつなのかっていう読み取りにくいので、できれば平成何年度っていうふうに書いていただくと非常に有り難いなと思うんです。ちょっと、まとめ方が分かりにくいなと思ったんですね。それでも265名増加したということで、何かちゃんとニーズを把握しながら参加者を増やしているというのはいいいし、これをもっともっと続けられるなら、30年度を目指すべき姿というところにもっといい報告をされるのではないかなと思いました。

あとはこの**資料2** 6ページの寄附の促進のところ、寄附募集ガイドの作成で1,000部というのがありますが、それは広く県民のことを考えれば非常に少ない部数です。この寄附募集ガイドを作成するとともに、例えば県の広報誌を活用するとか。ばんと載らなくても、欄を少しもらって、広くもっと県民・市民に届く広報誌の活用を、上手に行うと良いんじゃないかと思いました。

ただ**資料2** 7ページ目の事業者との連携っていうところで、NPO・企業パートナーシップというところのお互いの連携を進めるっていうところ。私さっき、認定NPO法人のメリットのアナウンスっていうか、どこにしたんですかってお伺いしたのは、ひょっとその認定NPO法人格を取ったらいいですよっていうメリットの広報がNPO法人のほうに向かっているとすれば、それはNPO法人は知っている。取るのがめんどいとかいろいろあっても、メリットは私たちは知っている。しかし、それを活用してほしい企業のほうが知らないんで、この面倒くさい認定NPO法人格を取っても、

具体的なメリットが上がってきていないような気がするので、広報するターゲットはNPOではなくて企業のほうじゃないかなと思うので、企業にいろいろ連携するような場があれば、認定NPO法人を支援することは企業にとってもメリットになるんですよっていう広報をどんどん進めていってほしいなと思いました。

以上です。

(会長)

質問は1つ。

(委員)

質問は1つ。評価はいっぱい。

(会長)

はい。まず、質問にお答えいただきますか。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

認定NPO法人のメリットをPRする。確かに先ほどお話があったように、対象としてはNPO法人をイメージしたものでした。指摘を踏まえ、取り組んでいきたいと思います。

(委員)

よろしくお願いします。

(会長)

意見で何かありませんか。

(会長)

ありませんか。

年度の下ろし方については、報告書まとめるのに年度を統一をしていただきたい。これは私のほうからもお願いします。

ほかはよろしいですか。

(会長)

はい、どうぞ。

(事務局)

さっき広報のことを言われていましたので、こちらのほうでも考えてみたいと思います。

(会長)

分かりました。ほかにご覧いませんか。

それでは、次の2番目の議題に移りたいと思います。

議題(2) 高知県の社会貢献活動支援に係る事業概要について、平成27年度実績及び平成28年度予算の概要について、事務局からご説明をお願いします。

《事務局説明》

資料3について説明

《資料3に関する質疑応答・意見交換》

(会長)

はい、ありがとうございます。

事務局から説明がございましたけれども、ご質問、ご意見ございませんか。

(会長)

はい、どうぞ。

(委員)

表の総額と総合計額を出しといてください。

(事務局)

分かりました。

(会長)

ほかはございませんか。

よろしいですか。はい、それでは3番目の議題に参ります。

《事務局説明》

第3次社会貢献活動支援推進計画に基づく支援策の2年間の取組成果について、

資料4により説明

(会長)

はい、ありがとうございました。
それでは、センターお願いします。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

資料4について説明。

(会長)

はい、ありがとうございました。
それでは、高知市民会議のほうよろしく。

(NPO高知市民会議)

そうですね。もう全部、県もセンターから言っていたんですけども、一つだけ、資料4 10 ページの中間支援組織との連携の中でセンターが言わなかった部分で、センターと西部とうちと、あと環境の杜こうちさん、この4つの団体で定例会っていのをやっておりまして、県内の中間支援組織との年間事業を共有することでお互いの事業の開催日が重ならないように、県民が参加しやすいスケジュールを組むことに努めております。他の県にはないような顔の見える良好な関係づくりができていているということです。

(会長)

はい、ありがとうございます。
高知県西部NPO支援ネットワーク、お願いします。

(高知県西部NPO支援ネットワーク)

はい。資料4 6 ページをごらんください。

NPOフォーラムという欄になっておりますけれども、一番下の県民への普及啓発で、セミナー、シンポジウム等を実施したんですが、26年度は四万十町で、27年度は三原村で地域の学習交流会を開催して、住民一人一人に対してNPO活動・住民活動の啓発事業を行っております。

以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。

それでは、それぞれ実施主体からの説明がありましたが、ご意見、ご質問ありませんでしょうか。

《資料4》に関する質疑応答・意見交換》

(委員)

はい。

(会長)

はい、どうぞ。

(委員)

センターにお伺いしたいんですけれども、資料4 3ページの認定NPO法人への移行促進のところなんですけれども、問合せ件数に対して具体的にNPO法人になった数っていうのは少ないんですけれども、これは実際相談に見えられて認定NPO法人になれるような要素がなかったのか、それともいろいろ話を聞いてやめられたのか、どちらなのでしょう。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

問合せがあつて以降、毎年問合せがある法人もあつたりはします。なので、問合せがあつた法人においてまだ認定NPO法人になってないところは、自分のところではハードルが高いというふうに感じているところもあるのでは、とは思いますが。

(委員)

完全にやめられたわけではなく、継続して考えられているということもあると。

(高知県・ボランティアNPOセンター)

そういったこと自体もございます。

(委員)

分かりました。

(会長)

よろしいですか。

(委員)

はい。

(会長)

はい。ほかにはよろしいでしょうか。

(委員)

確認だけ。1ページの活動基盤の整備の、助成金収入で今37%とかあるところが30年度の目指す姿ってところが20%が助成金収入を得るというのは、今後、助成金というのは少なくなるものではないんですか。私の数字の見方が間違ってるのかもしれないんですけども。今、37%のNPO法人が助成金収入を得ている。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

これ、どう評価するかということになるのかもしれませんが、センターとしては助成金としてNPOの方々が活用できるものが増えて、NPOの方々も取組をされている。そ目標設定が低いという捉え方ではなくて、いい方向に向かっていった結果というふうに考えています。

(委員)

目標数を超えてるということでしょう。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

そうです。

(委員)

今、既に超えているように読めるのだけれども、目標設定が20%と割と低めにとっていると思う。その読み取りは間違いはないですか。

(委員)

なぜ目標はこんなに低かったのかと。

(委員)

分析機能がなかった。

(委員)

意義はあれですか。助成金がなくても自立してやっていくからとか、そういう意味ですか。助成金がなくても自立してやっていけるという方向性を目指すという意味でもありますよね。

(委員)

普通でいったら、これ 37%あるわけやから、40%とかですね。普通だったら。

(会長)

これはセンターですかね、事務局ですか、どっち。設定が低すぎた、目標も。

(委員)

これは、この計画を立てる 2 年前の状況を考えてみていますので。それは私の感覚ですが、助成金申請をする段階での数字ではなかったのか。NPO 法人さんたちが、どうやって助成金を申請していいかわからないとか、面倒くさいとか言って、申請書に毎回書かなくてはいけないことがあって、申請を出してなかった。そこで、20%ぐらいから始めることになったのだと思います。

実際問題は、感覚と助成金申請の仕方。講義を受講して、相当数が助成金を獲得した。これが毎年、繰り返されていって、だんだん助成金の申請を出したところが増えてきているということだと思います。だから、低く目標設定したのは状況がそうだったと。だから、目標設定し直さないといけないとなったら、もうちょっと高めて、もう 6割7割ぐらい、若しくは累積ではなく、これを毎年 20%にするとかね。これに累積ですから、多分、毎年 324 法人の 20%がもらってるのじゃなくて、この間にももらったところが 1 年ももらえばパーセントが付いてくるね。そこら辺をどうするかは、もちろん、これは私の私見ですけど、目標の修正というのもあってもいいんじゃないか。思いの外成果が上がってるのであれば、目標を修正して高いところを目指すというのも。まだあと何年ですか。3 年後ですか。5 年計画。

(事務局)

5 年計画で、今、中間期なので。

(委員)

28年3月末で323法人で、37.2で、7月で1増えたらパーセンテージが下がったと。これ累積で計算をします。

(委員)

2年間の取組はそうなんですけども、30年度のところの書き方です。

(委員)

センターから上がってきている120法人っていうのは、どういう方々。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

これは平成26年度の事業報告書の記載に基づいてますので、その平成26年度時点で助成金収入を得たところが120法人ということです。単年度。

(委員)

単年度。累積じゃない。

(委員)

要は、あくまで27年度の方は分からない。ここに上がっているのは26年度の方だけ。1年間の実績。

(委員)

これ、そうすると括弧の中はちょっと計算がこれではいかんのじゃないの。26年度の事業報告だと、26年度の法人数で割合出さないといけないんですよね。そうすると、もうちょっとパーセントが高まる可能性があるわけでしょ。だって、法人数少ないはず。もっと割合が高かったということですよ。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

そうです。

(委員)

27年度が載ることによってちょっと評価が変わるので。下手すると26から割合が下がってくる。法人が増えた分だけ。そうすると、我々がやっている取組は努力が足らんということです。

(委員)

ちょっとこれ、数字の出し方がまずいかなと。

(会長)

確認をしていただいて、2回目のときに報告していただくようにしましょうか。
正確に。

(事務局)

分かりました。

(会長)

お願いします。

(会長)

はい。ほか、よろしいですか。ほかにございませんか。

(委員)

では、一点だけ。

(会長)

はい、どうぞ。

(委員)

先ほどの助成金収入のところ、実は高知市でも、まちづくりファンドとこどもファンドの2つの助成金制度を構えてるんですけども。実は、ちょっと恥ずかしいことなんですけど、やっぱり助成を申請する団体数というのはちょっと減少ぎみです。こうやって、事実かどうかはともかくとして、多くの団体が助成金を得られているという状況で、実際に申請にこぎ着けるまでのノウハウというか、どうやったらこういう数字が上がってくるのかなというのは率直に聞いてみたいなと思ったんですけども。何かいい工夫されてるのかなと思ったんですけど。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

はい。そうですね。助成金を得るためには、それぞれの団体さんのミッションとかそういったものを明確にしてというところもありますし、そのためのテクニク的な

部分があったりします。センターとしては学びの場を設けさせていただいて、そこに来ていただきながら助成金獲得に向けてのそれぞれの法人の取組を後押しさせていただいているという取組はさせていただいています。

(委員)

それも受講された方が申請されることが多い。

(高知県ボランティア・NPOセンター)

そうですね。助成金をテーマにした場を作るなど、していますので。

(委員)

はい。ありがとうございます。

(会長)

もう少しに時間がなっていますが、ほかにございませんか。よろしゅうございませうか。

それでは、予定の時刻になりますので、これで全ての議事を終了させていただきます。事務局にお返しいたします。

(事務局)

本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

以上をもちまして、平成 28 年度第 1 回高知県社会貢献活動支援推進会議を終了いたします。

本日はありがとうございます。